

道徳科学習指導案

主題名「きっぱりことわる」内容項目：A [善悪の判断, 自律, 自由と責任]

令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時 4年〇組教室
4年〇組 指導者 〇〇 〇〇

I 授業の構想

1 価値観および児童生徒観

価値観	児童生徒観
<p>人として行ってよいこと、社会通念として行ってはならないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、児童が幼い時期から徹底して身につけていくべきものである。よいこと、正しいことについて、人に左右されることなく、自ら正しいと信じてるところに従って、誠実かつ謙虚に行動することは、人として重要なことである。この段階の児童は、様々な学習や生活を通して、正しいことや正しくないことについての判断力が高まってくる。しかし、正しいことと知りつつもそのことをなかなか実行できなかったり、悪いことと知りながらも周囲に流されたり、自分の弱さに負けたりしてしまうこともある。正しいことを行えないときの後ろめたさや、自ら信じてるところに従って正しいことを行ったときの充実した気持ちを考えることで、正しいと判断したことは自信をもって行おうとする心情を育てていくことが大切である。</p>	<p>本学級の児童は、行ってよいこと、行ってはいけないことを区別したり判断したりする力は身につけている。善を喜び、悪を憎む態度も身につけつつあり、正しく生きようとする様子が見られる。しかし、仲間との人間関係が深まりつつある中で、行為の正しさよりも、人間関係を優先した判断になってしまい、正しいことを言えなかったり、悪いことと判断する前に、周囲に流されてしまったりする様子も見られる。児童が正しい行いができた時やできなかった時の気持ちを実感し、自ら正しいと信じてるところに従って主体的に行動できるような心情を育てていきたい。</p>

2 教材観 「さち子のえがお」(出典：小学どうとく 生きる力)

本教材の内容は、次の通りである。

ある日、主人公のさち子は同じクラスのユミの万引きを目撃する。ユミからの「いっしょにやろうよ。」の誘いに一瞬迷いが生じるが、さち子ははっきりと「いや。」と断り、ユミも止めるよう忠告する。次の日、ユミからお礼の手紙をもらったさち子は、「はっきり言ってよかった。」と笑顔になる。

本時では、本教材を使用し、万引きをしている友達を見たり誘われたりした主人公の心情を追い、正しい行いができた時の気持ちについて話し合う活動を設定する。このことは、児童が、正しいことを行うと充実した気持ちになることに気付くことにつながる。また、万引きに誘われた時の驚きや一瞬の迷いに共感させることで、正しい行いをすることが大切だと分かっているが、状況に流されてしまうことがある人間の弱さに気付くことにつながる。

3 指導方針

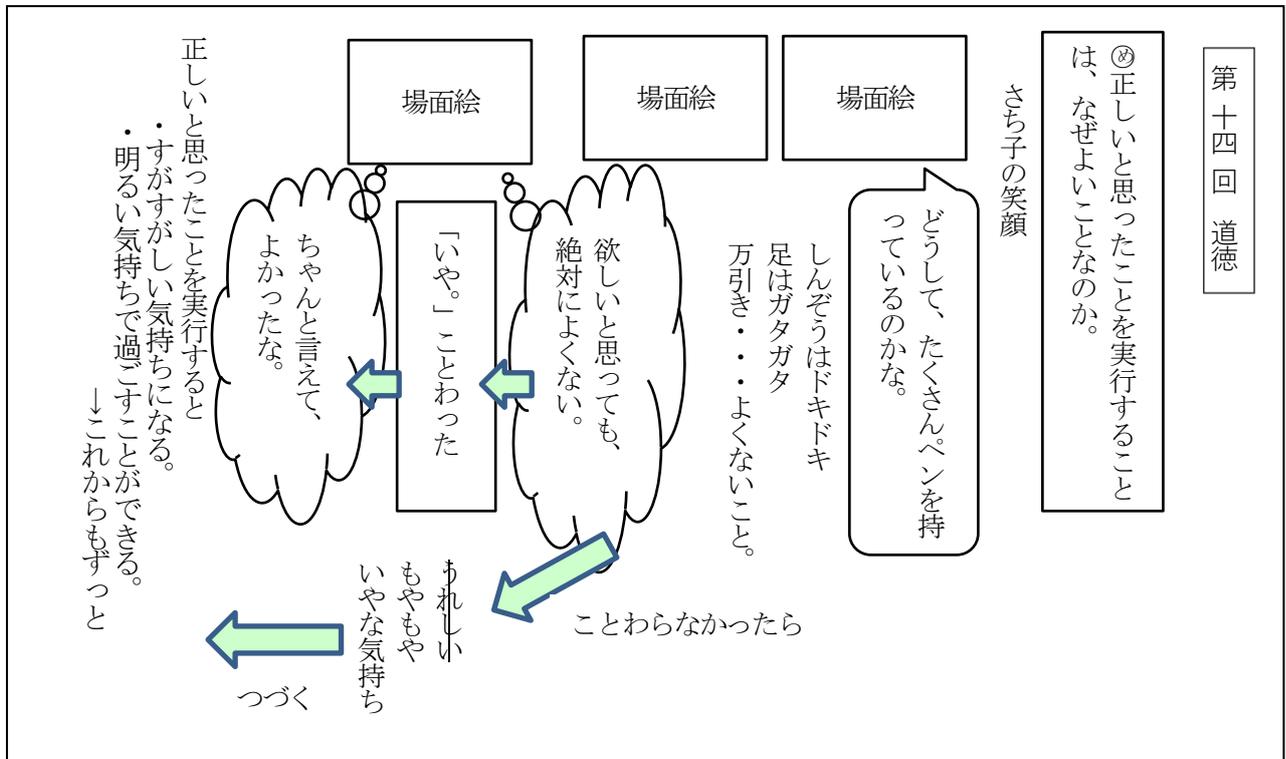
視 点	指導方針
自分との関わりで考えるために	<ul style="list-style-type: none"> ・正しいと思ったことを実行することについての問題意識を高められるように、導入において、正しいと分かっているのに、できなかったことについて日常生活から思い起こす時間を設定する。 ・自分のこれまでの生活を振り返り、これからの生活への見通しがもてるように、ワークシートにこれからの生活で大切にしたいと思ったことを書く時間を設定する。
多面的・多角的に考えるために	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の心情が捉えられるように、時系列に沿って主人公の気持ちを板書する。 ・正しい行いができた時とできなかった時の気持ちを比較できるように、補助発問を行う。

II 本時の学習

<ねらい>

その場の状況や自分の興味などに流されず、正しいと判断したことを行うことができたときの気持ちを話し合うことを通して、よいと思うことを進んで行おうとする心情を育てる。

<板書計画>



<展開>

学習活動(○発問、◎中心発問、◇問い返し)	指導上の留意点
<p>1 本時の学習の方向をつかむ。(5分)</p> <p>○正しいと分かっているのに、できなかったことはありますか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><めあて></p> <p>・正しいと思ったことを実行することは、なぜよいことなのか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・善悪の判断についてこれまでの生活を想起できるように、実生活の具体的場面を思い起こすように促す。 ・本時のめあてを捉えることができるように、正しいと分かっているにもかかわらずできなかったときの気持ちを思い起こすように問いかける。
<p>2 教材を読んで話し合う。(30分)</p> <p>○カラーペンを友達に渡すユミを見て、何を思ったでしょう。</p> <p>S：どうしてたくさんペンを持っているのかな。</p> <p>S：ペンをたくさん持っていてうらやましいな。</p> <p>S：買ってもらったのかな。</p> <p>○ユミに誘われたとき、どんな気持ちになったでしょう。</p> <p>S：自分も欲しいな。</p> <p>S：万引きはよくないから断らなきゃ。</p> <p>○ユミのさそいを断ることができたのは、どんな気持ちがあったからでしょうか。</p> <p>S：欲しいと思っても万引きは絶対によくない。</p> <p>S：誘われたとしても、だめなことはやってはいけ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さち子の気持ちに注目して考えられるように、範読の前に登場人物について確認する。 ・さち子の万引きに対する考えを捉えられるように、基本発問を行い、気持ちを考えるように促す。 ・さち子の心情に沿って考えられるように、時系列に沿って場面絵を提示し、板書する。 ・善悪の判断についての価値にせまられるように、万引きは絶対によくないことであるという認識を全員で共有する。

<p>ない。</p> <p>◎断ることができたさち子は、どんな気持ちになっ たでしょうか。</p> <p>S：はっきりと断れてよかったな。 S：誘いにのらなくてよかった。</p> <p>◇断れなくても、欲しいものが手に入ってうれしい 気持ちになったのではないのでしょうか。</p> <p>○正しいと思ったことを実行することは、なぜよい ことなのでしょう。</p> <p>S：すがすがしい気持ちになるから。 S：明るい気持ちで過ごすことができるから。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中心発問に対する自分の考えをもてるように、ワークシートに記入する時間を確保する。 ・多様な考え方に目を向けられるように、ペアで考えを伝える際に、自分の考えと比べながら聞くという視点を与える。 ・自分の考えを明確にできるように、問い返しを行う。 ・正しい判断ができなかった時の気持ちを捉え、価値理解が深められるように、補助発問を行う。 ・価値理解の深まりを実感できるように、めあてをもう一度問いかける。
<p>3 これまでの自分の生活を振り返り、これからの生活を考える。(10分)</p> <p>○これからの生活で、大切にしたいと思ったことを書きましょう。</p> <p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうすればよいか迷ってしまうことがあるかも知れないけど、流されずに正しいと思った方を選んで実行し、明るい気持ちで生活していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の価値について、自分事として考えられるように、日常の具体的場面での気持ちを想起するように促す。
<p><評価の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・その場の状況や自分の興味に流されそうになる気持ちや、正しい判断ができた時の気持ちを踏まえて、正しいと判断したことは自信をもっておこなうことについての自分の考えを表現している。 	